

養正市営住宅団地 未来のまちづくり ミーティング

通信

Newsletter
VOL.3

養正市営住宅団地再生計画の「活用予定エリア」をどのようにしていくかを話し合う『未来のまちづくりミーティング』の第三回・第四回が開催されました。ここではミーティングでの発言内容の要旨をまとめてご紹介します。

P2

Part 3 養正市営住宅団地周辺部にお住まいの方に、跡地活用への思いを聞く

- ・村上光幸さんからのお話
- ・大谷八重子さんからのお話
- ・下村泰史さんからのお話
- ・参加者との質疑応答

P5

Part 4 養正学区やその周辺地域で子育て中の方に、跡地活用への思いを聞く

- ・上林護さんからのお話
- ・中カンタベ優美さんからのお話
- ・藤井亮治さんからのお話
- ・参加者との質疑応答

開催概要

開催日 第3回:令和4年5月28日(土)午後2時~/ 第4回:令和4年6月25日(土)午後2時~
開催場所 左京西部いきいき市民活動センター高齢者ふれあいサロン
司会 かもがわデルタフェスティバル実行委員会事務局長 杉山準
主催 かもがわデルタフェスティバル実行委員会・養正学区各種団体連絡協議会
オブザーバー 京都市住宅すまいまちづくり課
一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団「コミュニティ活動助成」助成事業



養正市営住宅団地周辺部にお住いの方に、跡地活用への思いを聞く

開会の挨拶

養正学区各種団体連絡協議会会長
かもがわデルタフェスティバル実行委員会委員長
浅井吉弘

1回目に(市から)基本的な(団地再生)計画を伺い、2回目に団地住民の声を聞いた。今回3回目は団地周辺にお住まいの方の声を聞く。基本的な会の進め方は一応決まっているが、出てきた課題などを、皆さんの声を聞きながら修正して(今後も)進めていきたい。

杉山 前回、前々回の会でこのミーティングはどういうものかご質問をいただいたため、『養正未来のまちづくりミーティングについて』というペーパーを作成した。

参加者A 資料に『意見をまとめ』や、『一定の整理を行い京都市と共有します』とあるが、ここで出たいろんな意見や想いは、(団地再生事業が行われるにあたって)京都市に効力があるのか?公式に(この会に)京都市が出席されるべきだと思うが、それが今後あるのか?『参加したいけれどできなかった人、話し合われたことを教えた方には話された内容を公開します』とあるが、どういう形で公開されるのか?もう1回目の(内容)はネットに公開されているが、意図的か分からないが削除されている部分もすごくあり、自分たちのプライベートの話が話し合われる(内容を)ネットに勝手に公開されるのは、この場が安全じゃないと思うし、怖くて発言できず、本音を話せないということになりかねないので、公開の仕方、議事録のまとめ方などを詳しくここで共有してほしい。

杉山 この会は、まずはいろんな人たちとまちづくりについて対話を生んでいこうということが趣旨で、問題に対して意見を一本化して京都市に言うことを最初から目的とはしていない。最終的にこの話し合いの中で、これを京都市に言いたいということが概ね総意となったら、(京都市に)きちんと伝える。効力については、ここはまっとうな開かれた会であって、その中でいろんな意見が出て、そこで例えばこの地域住民が跡地をこう活用してほしいと望んでいるということがそれなりのふさわしい手続きで進めば、きっと京都市に届くと信じている。これだけ開かれた会で、情報も公開して誰でも参加できるようにして話し合いが積み重ねられた結果を、そう無下にされないのではないかと期待をしている。情報の公開については、(意思確認をせずに)議事録を上げてしまったので、それについて気分を害された方や、自分の発言と違うと思われた方がおられたら大変申し訳ない。そういう意図ではない。公開はかもがわデルタフェスティバルのホームページから入ることができ(当日配布資料にQRコードあり)、TwitterやFacebookとInstagramでもこの会の情報を公開している。また、そのような機器をお持ちでない方には、(当日配布の)アンケート用紙に住所と名前を書いていただいたら、摘録の形のニュースレターで情報をお送りしようと思っている。ホームページでの議事録は、多少修正をかけるが、基本的に全ての発言について網羅したものを公開したい。第1回目に関しては、マイクの調子が悪く、文字起こしが非常に難しかったため、手でメモしたものなどを基に書き起こしたので、発言が掲載されていない可能性があり、大変申し訳ない。もしそのようなことがあれば、載せて欲しい内容を連絡いただいたら修正する。逆に、私は載せて欲しくないという場合も削除させていただく。また、雰囲気伝えるために写真を撮らせていただいている。それも本当はお断りをすべきで、お詫びをするとともに、今日の内容もいずれ公開させていただくが、写真を使わせていただきたい。出席者の顔はぼかし、誰が参加したかわからない

ように配慮をする。まずは住民が住民の間でまちづくりについて話し合う場にしていきたいので、京都市の正式参加は今のところ考えていない。要望をまとめて京都市に伝えることよりも、その住民同士の対話を生んでいくことを目的としていきたい。ただ、ここは京都市の方じゃないと説明が難しいという場合には呼んで説明していただく可能性はある。

参加者B 全体での住民説明会が開かれていない。ここがその代わりで京都市が参加するオフィシャルなものかと思っていたが、そうではない。ここで毎回いろんな意見が出たものを、京都市に一応届けるが、別にそれは京都市がその内容をどんなふうに受け止めるのか、公式にディスカッションするための場ではなく、このまちづくりがされていくことを例にとったワークショップの場のようなものなのですね。

杉山 そういうことです。

参加者B わかりました。

参加者C この住宅に住んでいる。いつも京都市の方から説明も何も勝手に(計画の)図面がポストに入っていて、図面を描いているときには、もう先に(事業の内容が)決まっていると思う。高齢者がたくさんおられる中で、ネットのことを言われても、高齢者は(団地再生事業のことを)本当に知らない。本当の(事業の)中身は(京都市が)どこまで言ってくれているのか。住民が本当に住みやすい環境をどれだけ作ってくれるのか。(参加者の中に)ここに住んでいる人はわずか(地域外の参加者のほうが多い)。周りの人が本当に心配して環境を気にしてくれているのはありがたいが、住民は、話を聞いてもらえる場所が全くない。いつも中途半端で終わって、一方通行で書類が回ってきて、進めていると感じる。同和地域の中で養正地域は(事業が)進むのが一番遅い。意見が(今まで)なかなか反映されていなかったと思う。京都市にはお金を生むこと、環境、私達住民の住みやすいように、それを考えてほしい。

参加者D 今日来られている方は、京都市からいろんな説明が聞けるとして来られている方がほとんどだと思う。それなのに、もし市に伝えるようなことがあれば伝えるというのは、今回の集まりの意味がないと思う。

浅井 1回目の(ミーティングでの)のときに、跡地活用の予定エリアについては、地域住民の声を聞きながら進めるという話を行政側がしてくれた。そこを僕たちがまとめていこうというのが始まりだったが、京都市側の説明が今まで不十分だったというのは、今までの(このミーティングでの)話を聞いていて痛いほどよくわかる。引越先のアパートの間取りなど個別のことについても、今まで説明が十分なかったということがあらためて確認されている。それをどういう機会で、どのような形でやるか。それはこのまちづくりミーティングとはまた別の会でやるべきか、この会がそれをやるべきか、実現できるように京都市側とも相談する。それがいつになるのかは分からないが、それは進めていきたい。

参加者C (事業のできる)跡地(のこと)を話すはこの会だと思っているが、私たちはこのプロジェクト(について)ただ一方通行で紙をもらっているだけで、相談する場所が分からない。まず私たちは一番心配なのが住むところで、跡地をどうするかというのが一番だが、今までよりも良い環境をということで、私は(今回)初めて参加させてもらっている。だけど、京都市が全く(ミーティングの内容を)聞かないのはおかしい。だからいつかどこかで(この会に)来てほしい。

浅井 跡地活用エリアに関して、箱物など、ハードの面は一方で、もう一つのソフトのまちづくりという面もあわせて考えていきたいというのがこの会の趣旨。跡地にどんな建物が欲しいかだけではなく、それを住民がどのように活かしていったらいいか。ハードの面だけ立派なものでも、それをどのように地域住民が使いこなして良い街にしていくかということまで話し合っていきたい。だからハードの面に関しては、疑問に思っておられることもたくさんあると思う。今まで説明不足だったということは確実に明らかになったので、それを解消する方法を、このデルタフェスティバル実行委員会がするのか、また別組織がするのか、進めていきたい。

参加者B 主催者が行政の代わりに責められて、行政の代わりに返事なくいい。浅井さんは一生懸命に(行政の)代わりになるようにされているように見える。市の職員が説明会をまずしてくれという住民の要望と一緒に届ける側に(主催者に)なってもらいたい。そこから、ソフト面は自分たちも手伝うけど、地域住民の要望を聞くのは君たち(市)の仕事だとしっかり言ってほしい。ここでは無理なら、はっきり言っていただいたら自分たちで行く。

参加者D 最終的に判断をされるのは京都市。市に持っていく問題に関して、それをここで話し合っ、(会の主催者側で)精査して持っていけると、みんなの意見が反映してもらえないこともある。だから(京都市職員に来てもらい)、返答しなくてもいいから、話に耳を傾けてもらう。それで、こういう意見があったからこんな方向でいこうということ京都市に考えてもらわないといけない。ここで言っているだけでは、それが最終的に京都市に繋がっても、みんなの意見が反映されていなかったら意味がない。だから、ここで出た意見を京都市に直接聞いてもらわない限りは、みんなの意見を反映するということはあまりない。なので、市は勝手にどんどん話を進めていくと、私たちの意見がどこまで反映されたか(わからず)、出来上がったときには、こんなこと頼んでないみたいなこともあると思うので、京都市も一緒になって話をしないといけないと思う。

参加者C 財政が無いと言って、ここ(の再生事業)にも予算が要するのに、京都市役所の(漆塗りの)エレベーターなどにお金を無駄遣いしている。どう(お金を捻出して)この地域を作るのか。

浅井 住宅の建て替えに関しては、国からも予算が出るので、京都市が全部(お金を)出すのではない。跡地、活用予定エリア(に関して)は、全部京都市が出すのか、ものによっては国からの補助もあるのかは僕も(京都市に)聞きたい。将来的に実現可能なものに近づけようと思えば京都市だけではお金が回らないから、国から補助をもらえやすいものを作るように要望することも可能。だからその辺も、活用予定エリアに関する予算は、どんなものなら国から補助も出るというような説明も京都市から聞きたいと思っている。8月まで(の、このミーティング)は地域住民の声を聞こうという趣旨でやるので、それ以後、どうしても京都市の行政側からも公式な見解をという皆さんの声が多ければ、(京都市に)伝えて、11月~3月のあたりで呼ぶことも可能かと思う。その辺は皆さんの声を聞きながら進めていきたい。僕は京都市の味方で代弁しているみたいなことは思わないでほしい。

参加者D 住宅以外の跡地利用に関しての青写真みたいなものは、京都市では今どこまで進んでいるのか。

浅井 1回目の(ミーティングの)ときに京都市側に聞いたが、何も決まっていなかったこと。本年度中に(住民の)声をまとめてほしいというのが京都市の意向。だからこそ、僕らが今、意見が言える機会なので、それも一本化しようとは思っていないし、いろんな意見があってそれを併記で出すということも考えているので、その辺は京都市の言い方を信じて進めていきたい。

参加者D みんなの意見を聞いてもアバウトすぎて、具体的な意見は出にくいと思う。全く何もなかったところから、みんなにどんなものが欲しいかと聞かれたところで、わからないと思う。だから、もうちょっと具体的な案を提示してもらわないと、だだっ広いところに何が欲しいとかこんなのをして欲しいというのは、専門家でない頭の中で考えて発表するのは無理なんじゃないか。

浅井 具体的にこんなものが欲しいということだけではなく、こんな感じの使えるものがあればいいということから、それを話し合いながら何回か進めていって、意見を言って、その意見に対してまた意見してもらって、対話をしながら、それがだんだん明確なものに見えていったらいいと考えているので、最初からこういうものがいいとかいうことは出るはずはないと思うので、だんだん対話を重ねていく過程で、最終的にはそういうのがはっきりしていったらいいと思っている。

スタッフ 今日ここで話されたことをカットしてくださいという要望がなければ、何も編集しないで、そのまま全文公開して京都市さんに持っていくということ?

浅井 そういう形でも京都市に届けられるし、議事録に関しても、いやここはこういうつもりではなく、本意はこうなんですということもあればどんどん返していただいたらいい。それでだんだん完成度を高めていけたらいいと思っているので、気長に一年、お付き合い願いたい。

参加者C ここの地域の住民の跡地の考えと、地域外の人の跡地の考えは違う。それがどう合うかが課題だと思う。

浅井 その点に関して、一つにまとめる必要はないと思っている。地域の方はこういう考えで、地域外の方はこういう考えということ、そのまま併記して届けられる。議事録をきちっと残して、それも京都市がチェックしてくれたならば、それは届いているはず。

参加者B 令和3年3月に出た38ページに及ぶ養正市営住宅団地再生計画というのは住民には回ってきて見られているのか？

参加者C 養正浴場に貼ってあるが、なかなかわからない(理解できない)。目が悪い人や、学力(のない人など)読めない人もいっぱいいるので、先にそこをきちんと説明しないと何の意味もない。まずそこを知らさないことには、跡地(の話)は何の意味もない。

参加者B 事業者の名前が出てきていて、事業者が跡地利用(について)ヒアリングした結果なども出ているから、跡地利用に入る事業者はもう決まっているのかと。そういうところもすごく疑問があるので、次はぜひ市の住民説明会としてこの会でやってくださるか、できないのならできないと知らせて欲しい。お尻が決まっています、今年中に意見をまとめないといけないのなら、声がちゃんと届く仕組みを早急に作らないといけないので、それは次回やってほしい。

参加者E このーティングは、土地(跡地)の話だけをする予定と聞いていた。住居(のこと)とは別箇で、跡地だけの話をしようということに進んできていると思う。でも今日も多分その話(住居)が出ると思っていたが、聞いていないからそういう話が出てくるので、その説明がはっきりとできていないというのが一つの課題。ただここはあくまでも、更地になったところで何を建ててほしいのかいうことを、町内の方や周辺の方が共同で、いいものを作ろうという話をする場だと思う。

参加者D だから、前の(ミーティングの)時に(住居と跡地を)一緒くたにしないで、バラバラの会にしてほしいとお願いした。京都市の人がいらっしやるところで、住民が説明をきちっと受けられる場所と、跡地の空いた場所をどんなふうに利用するのかという話し合いとは別々のところでしないと、話がごちゃごちゃになってややこしくなるから、別箇のところ京都がきちっと説明するという形でしてもらったらどうですかとお願いましたが、それはなされてないみたいなので、そのあたりのことをきちっと整理してもらわないと、ここでみんなで意見を出し合って話し合って、それを(京都市に)出すと言っても、自分たちが出したことがそのあとにうまく繋がっているかが分からなかったら、ここでやっている意味がなくなってくる。

杉山 市には、説明会を開いてほしいという住民の声大きいということはお伝えしたい。もう一回整理すると、この会は、跡地をどうしていくかということと、もう一つすごく大事なものは、まちづくりは住民が主体になって進めることが基本。だから、どんな街にしていきたいのか、いろんな意見があると思うので、耳を傾けながら、こういうのもいいね、ああいうのもいいねということを突き合わせていくことが大事だと思うので、その辺をご理解いただければ。それでは、今回は住宅の周辺にお住まいの皆さんがどうということをお考えになっているかを聞く会で、今日は、3人の方にお話しただくので、そちらに移らせていただきたい。それでは最初に、村上光幸さんに思いをお聞かせいただきます。

村上光幸さんからのお話

村上光幸さん Y・Tまちづくりの会といい、景観を良くしていくために、毎月第2土曜日の月1回、清掃活動しながら、地道にコツコツと取り組んでいる団体。私はここの地区で生まれ育って、(この地域に)非常に思

い入れも強く残っており、今後の跡地のことについてY・Tまちづくりの会としての想いを少しでも皆さんに伝えたい。かまがわデルタフェスティバルをきっかけにこのミーティングがスタートし、デルタフェスティバルは多文化共生というテーマを持つ一方で、Y・Tまちづくりの会は福祉人権のまちづくり。デルタフェスティバルでは交流をキーワードにしながら、また未来のまちづくりミーティングは、日常の皆さんの足元からともに生きていくという社会を築ききっかけになればいいと思う。今まさに未来のまちづくりミーティングで、自分たちの地域は自分たちの総意と、こうして集まってたくさん意見を言い合うことによって、新しいまちづくりという機運が高まってきていると思う。今後の活用地について。最近よく地震が日本全国各地で起こっているの、災害に強いまちづくりということで、防災の施設の充実を少しでも実現したい。また障害のある方や高齢者の方、ひとり親家庭の方、外国人の方など、社会的立場の弱い方や困窮している人(のこと)をどれだけ僕たちが考えて、寄り添い型の地域共生社会の実現に向けたミーティングにしていけないといけないと思う。私がこの被差別部落地区で生まれ、また、障害を持つ子供もいるので、親亡き後のことも考えると、社会が私達を見るその眼差しに生きづらさを感じている。そういうところも、ぜひ皆さんとお話をさせていただきたい。中学校の教師をしている私の長男から、身近にDVの問題や子供の虐待、ヤングケアラーと言われるような問題が惹起していて、本当にその現実があって衝撃を受けたと聞いた。もちろん学校や福祉事務所や児童相談所が連携しておられるのはわかるが、地域でできることも今後考えていけないといけない。その中で、teraこやさんや、あすか子ども食堂さんなど、子供たちを支え、大きな役割をしてくれている子供たちの居場所があるので、跡地活用についてもそういう子供たちの居場所を確保し、充実できるようなまちづくりを進められたらと思う。たくさんの人にいろんな意見を言ってもらい、どんどんこのミーティングに参加してもらい、いいところも悪いところも全部含めて発展的に進めていけることを切に願う。

杉山 村上さんありがとうございます。何かご質問はありますか。

参加者F 私のところは養徳、北白川、養正の三つの学区の境目。他の学区からもこうしろと言われたり、また養正の方はほったらかしにされているんじゃないかという気持ちもある。先月(のこの会に)来て、(再生計画を)初めて知ったので、見放されているような気持ちになる。私たちは養正(学区の住民)なので、みんな一緒に付き合ってもらいたい。

浅井 養正小学校に通っているけど、避難所は養徳だったりというのがある。そういう境目にお住まいの方が、なかなか情報が伝わりにくいということがよく分かりました。ありがとうございます。

杉山 ありがとうございます。続きまして、大谷八重子さんにお話を伺います。

大谷八重子さんからのお話

大谷八重子さん 上京町55年ぐらい住んでいる。買い物便利で、交通の便も便利だからこの街はすごく住みやすい。跡地に欲しいものが三つある。まず第一に避難所。今、年に1回避難訓練を養正小学校でやっているが、集まるのは200人前後。養正学区の人口6500人がみんな一緒にやったらとても大変なので、できたら跡地に大きな避難所が欲しい。二つ目は集会所。高齢者も多くなり集会所もしたいが、今安く借りられるところは養正小学校と自治会館だが、2階にある。歳をとると(階段を)上がるのはしんどいし、降りるのは怖い。車椅子でも、どんな人でも行ける集会所がぜひ欲しい。それも今、コロナのようなときは空間が必要なので、広い集会所があったらいい。そして三つ目は広場。公園はたくさんあるが、行って、座ってのんびりしたいと思うような魅力のある公園は少ないので、老若男女みんなが行って楽しめるような大きな広場があったらいい。私の希望はその三つだが、これから皆さんのたくさんのご意見を聞いて、その中から、少しでも実現できたらいいと思う。

杉山 大谷さんありがとうございます。3人目は下村

泰史さんです。下村さんよろしくお願います。

下村泰史さんからのお話

下村泰史さん 東大路高野第3住宅という団地に住んでいる。以前、UR(都市公団:都市再開発事業や旧公団住宅などの管理を主な目的とする独立行政法人)に勤めていて、団地やニュータウンの仕事をしてきた。今は瓜生山の京都芸術大学で教えていて、最近はいろんな人の思い出の風景、故郷の風景みたいな仕事ばかりしている。南丹市の日吉ダムに沈んだ村の街並みを灯りで再現したり、盆踊りの歌に地域の思い出を入れていただくようなことをやっている。URに勤めていたときに、先輩が古い団地の建て替えの仕事をしてきた。URの団地では住んでいた人たちが、ここは好きだなとかいいなど思っていたものは大事にしてなるべく残す作り方をしようとなってきていて、元々あった木や石垣など、地域の人にいろいろ話を聞いて思い出のあるものを大切にしてくれそう、残せなかったら移設しようというふうに、丁寧に住民の意見を聞きながら、ここは元々こういう街だったという記憶が残るような団地作りを最近はしている。ここ(養正)にもそうあってほしいと思う。ただ、(養正では)果たしてそういう手続きがなされているのか。元々この団地にあったものを大切にしていきたい。この養正団地にも、子供の頃遊んだプレイロット(遊び場)、ご近所の人といろいろ話した場所、仕事で関わった場所など、それぞれの記憶に、いろんな思い出の場所や風景があると思うと思うが、このままだと、敷地ごとに建て替えをやると全部それがなくなってしまふ。果たしてそれでいいのか。(下村さんは詳しく地域のことを調べ、紹介していただきましたが、紙面の都合上、ご覧になりたい方はWEB議事録をご覧ください。)地域内には子供の遊び場や緑の拠点になっているところが多くあるが、建て替えまたは除却が計画されている住棟の外回りで確保されているものが多く、放っておけば失われてしまう。市側はこれに代わるものを計画しているかもしれないが、全体的にどういう計画になるかは今わからない状態。今までの遊び場や広場がどうなっていくのか。この場合は活用エリアの話をするところとはいっても、活用エリアの中で何をやるにしても団地全体のマスタープランがないとそんな話ができないというの、特にそこの外回りについてはあると思う。ここからは私の妄想。スターハウスがなくなるかわりに、南からの入り口になるところ(出町柳駅側)にはスターハウスのデザインを生かした新しい建物に。ちょっといい感じのカフェや広場がある感じの商業施設に。児童公園(現・希望の広場)は、(隣の)浴場も活用エリアになるので、これと一体的に使えるような建物にして、演劇・音楽・舞台芸術系の文化施設と公園が一体的に使えるように工夫。玄京町の児童公園はトンボとかバツとかと出会えるような自然型の公園に。跡地の活用エリアの建物は、おそらく商業系のもも入るし、若い世代の人たちも誘致したいという話もあるので、マンションと商業が渾然一体になっているような複合的なものにおそらくなると思う。そのときに、遊び空間や広場などを持っているものになってほしい。それ(広場や緑)を全体の中でどう置いていくかという計画の話をもっとしないと、結局なくなってしまうのでは。だからその辺はちゃんと考えていきたい。8棟・9棟の1階部分は今は閉まっているお店が多いが、元々は賑やかだったと思うので、新しく誘致される建物の1階などを利用して賑やかな街になつたらいい。(現7・8・10棟部分に建設される)更新棟②も21棟に合わせてセットバックするということになっているが、もうちょっと(道路に)寄せて、それに合わせて交差点を一体的な作り方にしたり、(21棟北東側の)お地蔵さんの周りも合わせていい形の交差点にできないか。これは何か意味があるわけではなく完全に私の妄想プランだが、こういうのをみんなでワイワイ考えられたら楽しい。本当はこういうレベルでの計画があればいいが、今(その計画がないまま更新棟①②はもう実施設計レベルまで進んでいる。話の進め方としてはどうか。私が思うことは、懐かしい場所や風景を大切にしたい。これから若い世代、お子さん世代も来れば、新しいふるさとになるから、今までふるさとだと思えたものを引き継いでいく、あるいは新しいふるさとにしないといけないということを考えて、家(住棟)も、外回りも作らないといけない。緑や遊び場みたいな空き地もすごく大事。それを大事にした上で外回り全体の計画が必要なのに、今は細切

れで、第1期はもう進んでいる。第2期もどうい話の進み方をするのかかわからない。それで、活用エリアのところだけ話してくださいと言われても何が来るかわからないので、バラバラな話になっているが、団地全体の話はどこかでしないといけない。それに地元の声を反映させる仕組みが欲しい。この会でできなければ、別のワークショップがあった方がいい。住棟ごとではなく、住民意見も取り入れた全体の具体的な計画をやるべき。今出ている団地再生計画には、全体のゾーニングは何年にここをやるという目標があるが、具体的にどんなものにするかということ、ほとんどない。第1期はもう、スケジュール表通りなら設計業務をほぼ終わりつつあるのでは。外構設計も終わっているのか。第2期は外構設計をこれからやるのであれば、住民意見を反映できるのか。活用エリアについてはまだ何も決まってないというが、これについての議論はどういうふうに、本当にどこからどうい話まで議論したらいいのかわからない。活用エリアについては、民間マンションになるのか民間商業施設になるのか、土地は売却するのか定期借地にするのかPFI(公共施設の設置・維持管理・運営等を民間企業に一体的に委託する手法)にするのか、この地域の重要なものになると思うので、民間企業だけがそこでお金儲けできるというのは良くない。この団地全体としての一体性が今のやり方で本当に確保できるのかが心配で、現時点での設計内容、計画内容をきちんと開示していただき、そこに声を反映させていく仕組みがあればいいというのが、隣町に住んでいる者としての感想。

杉山 下村さんありがとうございます。今の説明などで何かご質問などございますか。

参加者との質疑応答

参加者G 質問ではないが、この養正など(同和地域)の住宅は、一般の市営住宅とは全く異なる経緯で、私達のおじいちゃんおばあちゃん、親世代が京都市と交渉をして、建て替えを要求して建ててもらった住宅。その耐用年数が来て、建て替えていただくのは大変ありがたいが、そこで今までずっと住んで来られた方々が今後住みにくくなるようなことがあれば大問題。ここに前々から住んでおられる方に何か弊害があるような進め方はして欲しくない京都市にもうちょっと働きかけてほしい。同和地域ということで、表面的ではなくても差別されるということがいまだにある。ネット上にもすごい誹謗中傷が上がっている場合がある。だから、開かれる地域というのはすごく大切だと思うが、それに反してここに住んでおられる方が住みにくくなるようなことがないように、京都市に絶対に働きかけてほしい。皆さんが声を上げられて、こんな弊害や差別があるというのをはっきり言うべき。

参加者H 下村先生の、団地ができたときの記録を残すというのは非常に賛成だが、団地ができる前の地域の歴史を伝える田中親友夜学校の跡地の石碑が駐車場のフェンスの中に今でもあって、僕は同和教育を受けていた年代なので、その頃の歴史などは聞いたが、それ以降の子供たちはそういう歴史を知らないの、それをどうやって残していくかということのも大事なのでは。

下村さん (その石碑のことは)あまり存じ上げなかったが、すごく大事。

参加者I 養正学区の田中神社の辺りに住んでいる。この地域の歴史を知るようなコーナーみたいなものがあるといいと思う。宇治のウトロ(地区)に平和記念館ができて、在日コリアンの人たちが住んでいた地域のこれまでの歴史を展示されている。しんどかったときの生活の様子や生活道具、部屋の中の様子まで再現されたコーナーもあって、その地域がどんな場所だったか、子供たちが行っても学べる。そのような場所が(養正にも)あったらいい。私は神戸の阪神(淡路)大震災の後のボランティアに行っていて、年配の被災者が多かった。その方たちが避難所から仮設住宅へ、復興住宅へと移動するたびに皆さんが弱られて、歳をとって移動することでみんながバラバラになって孤立してしまい、通り一つ隔てた違う場所に行くのでも、歳がいつてからの移動はすごく辛く、きつい。(神戸では)マンションに移されても、自動玄関で入れなくなって締め出されたり、お風呂(の湯を)止められなくて溢れるから使えないなど、

新しい復興住宅に住む人のことを考えられていない。(この会では)跡地のことだけと言われるが、その辺は心配。今住んでおられる方の生活がどうなるのかは気になる。

参加者J 団地再生計画で活用予定エリアと定められているエリアそのものが適正なのかどうかということはこの場で意見集約をしていただく必要がある。それは今団地に住んでおられる方々が、過去に住まいをいわば行政に収用されて今の団地が作られたという経過があるので、活用地は(団地の)真ん中に作ると決めてしまっ、今の住民がどうい住まいを望まれるのかという意見を集約しないとは違う。外の者として(再生計画を)最初見た時に、団地の集団としての住まいのありようが分断されると思ったので、高層住宅が本当にふさわしかったのかとか、どうい形で住みたいと今団地の住民が思っておられるのかという意見集約をしていただきたい。行政がそのことをどう受け止めるかはそこから先の問題だと思うが、住民の意見はこの場でもぜひ聞いていただきたい。京都市の団地再生計画では、活用エリアは事業者や大学みたいなことも表記されているので、本当にそれでいくのかも含めて、(団地住民に)意見を聞いていただけたら。

下村さん URに勤めていたときに北摂三田(兵庫県)のニュータウンの現場にいて、(ここは)新住宅市街地開発法という法律に基づいて作っているニュータウンで、全面買収でやる。道路や空港を作るのと同じように強制収用の手法を使って、お金で(住民を)無理やり追い出して、その後、不動産にして売ってしまう。ニュータウンはそういう公共事業。皆さんの土地を市が買って上げて街にした(養正の)状況と似ている。改良住宅の新しいまちづくりすると言っ皆さんから土地を買上げたところを、民間事業者に投げ売りするということは倫理的に許されるのか。それで、民間事業者が入るのであれば、ここでまちづくりに参加する形での事業を展開するという何らかの条件づけは絶対必要だと思うし、それを可能にするためのマネジメントの枠組みみたいなものある程度考えながらでないと、住民ミーティングばかりやっいても、そこから何が生まれるのかわからないと思うので、都市計画等のマネジメントの専門家の人に来てもらっ話を聞くのもいいかもしれない。分断の話で、(計画では)街の真ん中に活用エリアが入っしまっているので、私はそのところにもオープンスペースなどをうまく入れて全体がうまく繋がるようになってほしいと思っているが、ここに例えばイオンモールみたいなのがきてしまったら完全に街は分断されてしまっ。分断しないようにするためにも、一部だけ実施設計まで突っ走っというのではなく、街全体の一定の計画みたいなものをみんなで思い描くプロセスを経ないと、取っつけたような、民間開発が割り込んでくるという形になってしまっかもしれない。

参加者K 大谷さんの意見に大賛成。脳梗塞を患っ友人は2階に上がれず、いきいき活動センターを利用できない。上り降りにはできるが、コンクリートむき出しの階段なので、足がふらつくので、何かの弾みで転倒したら(怖い)。そういう建物ではなく、高齢者向けに平屋で作っほしい。いきいき活動センターにはエレベーターがないので、公共の場にいるのに災害があったら(高齢者は)どうしようもない。そういう作りではなく、できれば木造で平屋建て建物にしてほしい。災害時には、備蓄品の備蓄も含めて、いざというときに活用できるスペースをぜひここに作っほしい。いざと言うときには子供やお年寄りを中心に活用できる、平屋で畳敷きの集会所や避難所をぜひ作っほしい。

参加者C いきいき活動センターでは、保育所の午睡にも関わらず金管楽器が鳴っっている。高層住宅に(楽器の音が)響く。私たちは迷惑。それをもしするのなら、ちゃんと防音設備も設けて、エレベーターもつけて、みんなが集まれるような気持ちのいい施設を考えてもらいたい。

杉山 ありがとうございます。本日のまちづくりミーティングはこの辺で終了にしたいと思っます。今日話された内容は議事録で発表します。それについてご意見のある方は事務局の方までお越しくください。最後に浅井会長からご挨拶させていただきます。

浅井 京都市では自主防災会が避難所を運営しなければならぬ。養正小学校の体育館が(避難所に)指定されているが、(災害時は)京都市の職員は誰も来ず、役員

が夜中でも出て行って、鍵を開けて電気つけて、長椅子などを出して、受け入れる準備が整える。全部地元人間がする。そこで、これだけの人数が養正小学校の体育館だけで収容できるはずがないのどういするのかと、地元の役員は思っている。地震の際は鴨川・高野川より東側の木造の家屋は6割方倒壊すると言われている。倒壊後に火災が起きると避難所へ行かないといけない。ただし、高層マンションや学生マンションなどの最新の耐震設計をしているところに住んでいる人と木造の密集地域で住んでいる人の避難所に対する思い(地震に対する)警戒感が全然違う。そういういろんな立場の人たちが集まって養正地域になっているので、そこで今の避難所1ヶ所では到底不可能だろうという思いが身近に感じられる人と、自分のところは大丈夫だろうという思いの人の違いがあっ、総合避難訓練にもなかなか集まってもらえないというのが現状。それと、僕自身の妄想で、叡電の出町柳駅を地下にしてくれという要望を今年、市政協力委員から出した。もしこれが地下になったら、もうちょっと(土地活用を)自由に描けるはず。(養正北西)駐車場と住んでいるところが離れていて、線路が分断している。本来なら元田中ぐらいまでは地下にしてほしい。消防署の緊急車両があっても(踏切が)鳴っいたら止まらないといけないが、元田中を過ぎたところで地上に出てくる(ようにする)と、線路の跡を全部使える。(下鴨警察署東側の叡電の)カーブがきつく、余計にうるさいので、これを地下化して、下鴨警察署の下まで(緩やかなカーブで)行って、川端通りの地下を南下して出町柳で京阪と乗り継ぎもしやすくなるようにしたら、(線路の跡を)自由に使えるが、京都府警の下鴨警察署は京都府の土地なので、京都府も来てもらわないといけない。京都市も今、住宅課が来てくれているが、本当は都市計画をする部門も来てほしい。そういうのもいつかやりたいと思っ、叡電は京阪電鉄の100%持ち株なので京阪電車も来てほしい。だから建て替え住宅の設計をしているだけの部門だけ来てもらっても話が進まないと思っ。こういう気持ちもあっ、いろんな方の意見をすり合わせていっ、僕自身も期待して、京都市側に話を持っていきたいと思っているので、ちょっと長い目で見てください。頑張ります。

参加者 実現できるように頑張ってください。私らみんな後押しします。

浅井 ありがとうございます。

参加者 具体的には、長い目ということ、6月は(次回のミーティングに京都市を呼ぶのではなく)この(元々の)計画通り(のテーマで)いくということか? 次の回に京都市の説明会をするということではないのか?

浅井 いつ市と説明会ができるかというのは調整にかかるが、デルタフェスティバルが10月にあるのでそれまでにはやれたらいいと思っ。頑張ってちょっと京都市に話してみますので、お待ちください。今日は長い間ありがとうございます。



養正学区やその周辺地域で 子育て中の方に、 跡地活用への思いを聞く

開会の挨拶

養正学区各種団体連絡協議会会長
かもがわデルタフェスティバル実行委員会委員長
浅井吉弘

市に住民説明会を開いてほしいという話(これまでのミーティングで)何回もあり、養正の各種団体連絡協議会の会長名で、地域住民だけではなく周辺の方も含めての住民説明会を開いてほしいと申し入れをしている。回答があれば皆さんにご報告できると思う。今後とも皆さんの声も聞きながら進めていきたい。

杉山 今回も、ここで話された内容を記録して公開したい。WEB サイトは見られないという方には、紙でも内容を報告する。まだ完成していないが、ご希望の方は郵送もさせていただく。今日は、子育て中の方に跡地活用、まちづくりについてお話を伺うというテーマで、この地域で今現在子育てをされている、上林護さん、中カンタベ優美さん、藤井亮治さんの3名に、まずはお話しいただく。トップバッターは上林護さん。

上林護さんからのお話

上林護さん 養正小学校のPTAの会長をさせていただいている。日曜日は上柳町の三差路のところにある加茂川教会で牧師をしており、普段は学校の先生もしている。僕自身はおばあちゃんと兄もいて、3世代で住んでいる昔ながらの子育て世代だが、この養正地区に暮らしている子育て世代の方々、シングルも、核家族で共働きなど、いろんな世代がいると思う。この集まっておられる皆さんでも、ここで子供を育てたいという若者も、子育てが終わって、孫はこういう地域でこういうふうに育ててほしいという思いがある(人もいる)と思う。僕自身は3世代の中での話しかできないので、ぜひ皆さんもこの場で、いろんな話をして、こういうことを望んでいる、こういうまちづくりにこんなものがあればいいということがどんどん出てくればいいと思う。現在養正小学校には121人の子供たちが通っていて、めちゃくちゃ少ない。校長先生にこの10年来どうなっているか聞いてみたら、どんどん減っていくわけではなく、年5名ずつぐらい少しずつ減っているという現状。隣の養徳(小学校)と合体したり、高野中と一貫校になってしまうのではないかと聞いてみたら、まだそういった計画は上がってなくて、絶対に大丈夫という回答をいただいているので、しばらくは、この校区に養正小学校があるというのは、確かな状態。意見が届くか届かないか(は別にして)、このまちづくりに関して、みんなが言っていくことはすごく大事。それが理想論で終わってしまうかもしれないが、(何も)言わずに、何か勝手にできているでは、ここに暮らす者としては寂しいし、出来たのに使えないとか、こんなのないとか、逆にできてよかったということもあるかもしれないが、みんなが意見を言うていくこと、みんなが耳を傾けること、こういう場があることはすごく大事。新しくここにできる活用エリアに、どんなものが子育て世代に必要なのかを自分なりに考えてみたが、地域の子供たちが集まれる場所(が必要)。学校に行きづらくなった子たち、家庭に居づらい子たちが、ここに行けば大丈夫、ここに行けば遊べる、ここに行けば安心する場所があればいい。小学校の前の飛鳥井公園にはなぜいっぱい子供たちが集まるのか。学校の前にあるから安心して、親御さんが子供たちを遊ばせることができるのもあるし、あの公園の良さは、三方向、四方向から、誰が遊んでいるかがすぐわかる。変な人がいてもすぐわかる。見ただけで、誰が遊んでいるかがわかる公園、開けた公園はすごく大事。

さらに、子供たちが安心して遊べる場所。また、遊べるだけでは、子供たちは集まらない。子供たちが集まるには、面白い、楽しいと思える場所。飛鳥井公園は高いフェンスがあり、ボール遊びができ、遊具があって、小さい子も遊べ、子供たちのコミュニティスペースになっている。そんな明るい公園だからこそ、大学生も、中学生も、小さな子たちも人がいっぱい集まってきてくれているが、小さな飛鳥井公園(だけ)では、良い意味で足りていないので、この活用エリアに、飛鳥井公園のような、開けた、ボール遊びのできる公園が欲しい。ただ子供たちのためだけの公園ではなく、ここで暮らす地域の人、大学生のボランティアの人、みんなが集まれるコミュニティスペースがあって、そこには子ども食堂があったり、歳をとった人が囲碁をして遊んでいたりと、誰かがいつもいる、そして誰がいるかということがすぐわかる公園があればいい。ただ、公園を作れば、子供が集まるかといったら、違う。うちの子が家に友達2~3人を呼んで遊んでいたら、気がついたら10人以上の子がうちで遊んでいた。誘われたから10人来たのではなく、うちの庭に誰かの自転車が置いてあったから、うちにいると思って入ってきた。子供たちはたぶん、飛鳥井公園に誰もいなかったら、自転車でこの地域を回って、誰かが集まっているところを見つけて、そこが子供たちのコミュニティスペースにぱっと早変わりしていると思う。なので、開けた公園、そして子供たちが遊びに行きやすく楽しい公園(が欲しい)。僕はPTAで、学校に関係があるから、もし公園ができたなら、授業の中などで、この公園はこうやって遊ぶんですよ、おもしろい公園やろう?と言って、子供たちが、ここに公園がある。こんな楽しいことができるんだ。そして、ここには子ども食堂があるんだ。ここには大学生の人と交われるスペースもあるんだ。ここに暮らしている人たちの暮らしがわかるスペースもあるんだ。そういうところで、学校と教育も繋がり、子供たちを助けたいと思う人たちが繋がる公園があればいい。

杉山 二人目、お話ししていただくのは中カンタベ優美さん。

中カンタベ優美さんからのお話

中カンタベ優美さん アメリカのニューヨークから子供を5人連れて京都に引っ越してきて、それから1年して養正に引っ越して来てから14年、今は合計で8人の子供を育てていて、8人も養正小学校で(計)14年間お世話になっている。本当に心地よく過ごさせていただいて、養正小学校は人権問題に手厚く取り込んでおられるので、私にとってはちょっと特別な小学校。うちはお父さんが外国人なので、見かけが日本人ではなく、引っ越して来たときも子供たちは日本語が話せなかったが、(養正小学校には)日本語の教育に取り組んでおられたり、外国人の方もこの地域にはいっぱい住んでいらっしゃるの、私達にとってはすごく住みやすく、受け入れてもらって生活しているという気持ちで過ごしてきた。ここに引っ越してくるまで住んでいた地域は私達にとってはちょっと住みにくく、疎外感を受けて暮らしていたが、子供たちも私も含めて、ここに来てからはあまり苦労することなく正直に生きているという、子供たちものびのびと過ごしているし、近所のコミュニティスペースや公園もみんなの目が行き届いているので、安心して子供たちも遊ばせてもらっている。そういう子供たちがもっと好きなことをできる場所を、今回のこの活用エリアに作っていただけたらすごくいい。行政の人たちが決められたまちづくりに私達が沿うよりも、私達の意見を聞いていただいて、それは大人だけではなく、子供の意見も含めて、また、年齢や人種などに関係なく、いろんな人の意見を取り入れてもらって、まちづくりができ、さらにこの養正地区が子供たちの住みやすいところになっていったらいい。あとは、外国人にもわかるサインをつけてもらったり、道が広いとか、体の不自由な方が使えるスペースもすごく大事で、そういうのがないと、みんなに活用してもらいたいと言っても、結局は決まった人しか使えないコミュニティスペースになる。そうではなくて、みんなが使える場所づくりをしていけたらいい。

杉山 3人目の方は、聞光寺の藤井住職さん。

藤井亮治さんからのお話

藤井亮治さん 11棟の前の、ちょうど養正保育所の乳児棟の南手にあるお寺で住職をさせていただいている。(未来のまちづくりミーティングの)議事録を3回とも読んだが、皆さんがこの3回やってこられたことは全部僕の思っていたことで、心配事は一緒なんだと思っている。第三回の時に、大谷さんが言っておられた避難所というか、前に公園みたいなのがあってというのはすごくいいこと。ここに50年ずっと住み続けているが、馴染みのあった風景が突然なくなって、いきなりマンションが建ったりして、知らない人が入ってくるのは怖いという気持ち強く、どういう方たちが入ってくるのかすごく気になる。息子も今中学1年生になり、土曜日にやっている、てらこやさんが、夕飯まで食べて帰るぐらい、すごく居心地がいいみたいで喜んでる。娘も隣の保育所に通わせていただいているが、毎日すごく楽しく、息子も去年まで6年間、養正校でお世話になっていたの、養正校の素晴らしさがすごくわかり、少人数だから、マンモス校よりも目が行き届いているのだろうと思う。(息子が)保育所に入ったときから、養正(小学校)と養徳(小学校)が合併するという話が出ていたが、楽只(小学校)が最後、児童が10何名で、やっと廃校になってしまったという話を聞いたので、121名は少ないが、廃校になるのはまだまだ先かなと思って安心はしている。今現状、養正学区は子供に関してのことはすごく行き届いていると思いながら生活していて、何の心配もないが、ここに何か建つことによって、それが変化するというのが怖い。人がたくさん来るとか、そういう変化は苦手で、あまり人が流れてくると僕の中ではすごく拒否感があるので、このままであってほしいと思うが、10年後変わらないといけなないので、どういふふうに変わるのかをここで皆さんで考えましょうというので、この会ができたこと聞いている。第三回のときに、この話し合いが(京都市に)届くのかというのが話の中に出たが、僕もその考え。養正保育所に息子が通い出したとき、家内が保護者会の副会長をやっていて、そのときに、修学院の方の保育所が民間に移管するというので、話し合いが京都市で1回設けられて、半年後ぐらいに移管になった。児童を通わせておられる親の話はほとんど聞かずに移管したというのを聞いているのと、僕ははじめ、ここの(市営)住宅が変わると聞いたとき、(団地再生事業が)動き出したということはもう決まっているのではないかと、何回も(京都市の方に)言ったが、11棟、12棟に住んでおられる方が動かれて、最後更地になってからこのまちづくりの話ゼロベースから話させてもらおうと言ったのに、いきなり何週間か前に杉山さんから、今年度中に要望書みたいな形にしてささないそれ以降は受け付けないというようなお話を聞いたので、役所は全然違ったことを言っているなど、決まっているのではないかと、この何週間かすごく怖くなってきた。周辺部の方にとっては公園とかができるのがいいと思う。僕は、お寺自体が(活用予定エリアの)ちょうど真ん前なので、公園や避難所的なものができたらいいと思うが、そうすると市が管理になって、公共施設になると思う。今の京都市の財政を考えたら、公園の管理や維持が難しいとも思うので、何が一番このまちにとっていいのかと思うが、正直何も変わって欲しくないというのが一番。10階建て(の市営住宅)がなくなるのが、ここの歴史がなくなるような気がして、すごく寂しすぎるし、ここがあって今の僕があると思っているので、ここを何かに変えることにすごく抵抗があるが、決まったものは仕方ないので、前に進まないといけなはいと思う。子供(にとって)の養正学区の環境がすごくいいので、何も変わって欲しくないというのがもう一番だが、更地のままにしておくわけにもいかなないので、公園みたいな、皆さんが集える場所ができたなら、一番いいのかなあと。マンションができて養正学区に子供さんが増えても一過性のもので、ここの(市営)住宅と違って普通のマンションはオートロックだから、ふれあいなんてたぶんないと思う。御所南の方のお寺さんにも、お年寄りが亡くなってビルが建ったら、もうそこは全く町内と接することはなく、人との交流がどんどん減るだけだとお聞きしていて、民間のマンションが建って、人が住まれて、学校の児童数が増えても、ここがまともにならなくなるだろうなという思いがあるので、僕は人を増やすためにマンションというのは反対。そうになったら、今、上林さんや中さんが言われたように、集える場所として安心して息子はあそこの公園に

いるとか、あそこに行ったら誰々がいるとかがわかる場所の方がいいのかなと、なるほどなと思って、今お話を聞かせていただいていた。ここの部落では、ここに家を持っていて人が急に(土地を)取られたという人も、家を持ってなくて、2階で間借りして所帯していたという人もいて、ここの中でもそのころ、格差があったと思う。そんな人たちが同じ部屋のサイズのところへ入れられて、納得するわけではなく、雨漏りしないところに入れてもらえて本当に良かったと言われる方もいれば、土地を取られて、こんな小さいところに住まわされてと言って怒られる方も(いて)、お詣りに行くと必ず聞かされたので、僕の中には京都市のものではなくて、ここに住んでおられた人の土地だという考え方が強く、ここの土地の人たちが、当たり前前の権利のように優先的にしていただくのが一番僕は得心がいく。歴史というのは貴重なものだと思うし、ここがあったからこそ今の僕があると思っているので、ここをまるっきりなくすようなことのないような、ここにずっと昔からおられる方の気持ちも考えた上でまちづくりをしていただきたい。ここの歴史があって、今、この話し合いがあると思うので、どうかそこを考慮しながら、先に進んでいただきたい。それを心得た上で、前向きな話し合いになっていけばと思う。

杉山 ここから質問やご意見のコーナー。

参加者との質疑応答

参加者A 私も兄も養正小学校に通った。自分の通っていた学校の人数がどんどん少なくなっていくのが心苦しくて、何とか養正小学校に通わせたいというお母さんが増えていくような学校作りをかねてから考えている。給食室を借りて、朝ご飯を週一ぐらいから子供たちに提供できないかというのが一つ。建物を新しくすると、道路を綺麗にすることが地域の活性化に繋がるわけではないと思っています。人と人との心が通わなければ絶対に活性化はあり得ない。地域の人の心と心が通うというのは、それは文化の継承かなと(思う)。テレビでもやっていたが、大阪の大正区で、昔沖縄から出てきた方たちが迫害にあって、そこで、沖縄エイサーを40年、地域の人と作り上げて、今それが文化になっている。養正地区にも、昔からの文化があったのでは。それが何かは、私は今のところはわからないので、(かもがわデルタフェスティバルの)事務局の方などがお聞きしたりして、昔あった文化を継承していくというのも一つのコミュニティの作り方。何年前にやっていた盆踊りを、養正の文化として絶対に継承してもらいたいと言われている方もいる。それが二つ目。三つ目は、(大阪の)寝屋川で、まちの空き地を農園に変えた方がいる。上賀茂や大原など車で行かないといけないような土地ではなく、自転車で行けるところで自分たちの野菜作りができる。何もやったことのない人でもできるように農機具も全部揃えてあって、1ヶ月何千円払ってもらったら野菜作りができる。それが成功した。自転車で行って畑をやっているうちに、やったことない方がやられている方に教えてもらったり、醬油作りや味噌作りをやったり、その中でコミュニティを作られている。だから、公園も避難所もいいが、そういう誰もが、朝自転車で乗って朝摘みの野菜を摘みに行ったら朝ご飯を食べられる小学校って素晴らしいと思う。だから今、大原ブランドや上賀茂ブランドの野菜があるが、養正ブランドという野菜を開発したらどうだろうか。(地域に)外国人の方がいらっしゃるの、ベトナムやフィリピンから持ってきてもらった苗が養正で根付いて養正ブランドとしての野菜作りの場も面白いと思って提案させていただいた。

参加者B 養正児童公園に最近、子供たちの姿が見られない。何が足りないから、今ある施設がコミュニティとして活用できてないと思われるかを、上林さんと中さんにお伺いしたい。

上林さん 人が集まる公園と集まらない公園がある。東京都で公園を調査されているデータのホームページを見たが、高いフェンスがあってボールで遊べて、そして開かれて、明るい公園で綺麗なトイレがあって、水場があるような公園は東京都では人気があるそう。でも、人気のない、全然使われない公園は、遊具が例えば滑り台とジャングルジムしかなくて、ボールが使えず、四方が囲まれていて、誰が遊んでいるか見えない。空いてい

るところを、行政が考えずに公園が必要だからと言ってできたような、何も考えられずにできた公園が人気のない公園になってしまう。だからこそ、ここに住んでいる方々がどんな公園が欲しいのか、そして、どういう公園だったら行ってみたいのかという意見がなければ、人気のない公園だけが(また)できてしまうのではないかな。

下村泰史*さん(*第三回ミーティング登壇者) みんなに喜んで使ってもらえて、ボール遊びもできて見通しが良い公園というのは大事なことだと思った。そういうところが飛鳥井のところの一つあるというのがすごく参考事例なり勉強になると思う。ただ、全部の公園が、見通しが良くてボール遊びができる公園になる必要があるのかどうかというのもまた考えなければいけないところで、おそらくボール遊びができてある程度広くて、運動的な利用ができるのは、中学生以上の子がよく使うようなスペースであることが多い。もうちょっと小さい公園になると、例えば遊具があって、小さい子供がそこで遊べてお母さんが見守れるスペースが用意されている公園もある。おそらくそれは、グラウンドがある公園よりはもっと身近なところに必要で、ここ(養正学区)だったらそれぞれの住棟にそういうスペースがあってもいいのではないかな。だから、公園の配置計画だけではなく、住棟の中のそういう遊びスペースみたいなものを一体で考えなければいけないのでは。一方で既存の公園で人気のないところがあるのは大問題で、養正児童公園と、それから玄京町の草っばらになっているところをどう生かすのかはやはり考えなければいけない。玄京町の方はグラウンド的な利用や、草地を生かしてバッチカとかが取れるような場所という考え方もできる。自然との触れ合いもこれからの公園には求められると思う。養正児童公園、希望の広場の方はあまり子供が遊んでいるように見えない。隣の浴場が今回の活用エリアに入っているの、そこに公園と一体的に使えるような文化施設みたいなものができると、今までの都市公園と違った利用が可能になって、そこは希望が持てる。おそらく市役所サイドとしては、活用エリアに商業施設や、人が住める施設が必要だと考えてらっしゃると思う。おそらくPFI(公共施設の設置・維持管理・運営等を民間企業に一体的に委託する手法)みたいな方法を考えていると思うが、そこに避難所や公園の要望が強いというのを聞いて、なるほどなと思った。単に商業施設やマンションにするというのではなくて、地域の人たちが使うことができるオープンスペースがそこに必要だというのは強く、市役所の方々にも伝えていかなければいけない。寝屋川の事例で紹介して下さったが、分区分園や貸し農園、市民農場は昔から公園施設のリストにも入っていて、公園の中でやってもいいものだが、運営のソフトの問題もあって普通の街区公園、近隣公園ではなかなかやられなかった。ちょっと洒落たコミュニティサービスみたいなのを組み合わせる形でそういうものを、この活動エリアのオープンスペースの中に入れていくというのは十分ありうることではないか。そのコミュニティ的な活動の中で、いろいろ地域の人が栽培して新しい名物も生まれたらすごく楽しい。いろんな夢が感じられるお話と思う。

参加者C 50年ほど前からずっと、部落問題に関わった運動をやってきた。子供が生まれてから、8棟に親子3人と母親と4人で住んでいた。すごく狭かった。子供2人ととも養正保育所でお世話になった。人権連を中心にして、秋祭り、夏祭り、盆踊りや、年末になったら餅つきしたり、ここの地域の名物である昆布巻きを作って販売したりというような、地域の住民が交流できることもやってきた。そういう文化や行事を、絶対このまちで継承してほしい。京都市は何もかもが決まってからでないと、いろんなことを住民に知らせてくれない。地域の人たちにオープンに説明会も開いていないし、ここの場でも責任ある京都市の人たちがまちづくりのために絶対に出てきて欲しい。21棟の南側ものすごく便利なので、私たちはそこに8棟の跡地と一緒に二つ(更新棟を)建てたらと思っているが、京都市の市営住宅の建て替えの具体的な計画を見れば、更新棟①をすぐ外れの方のわざわざ遠いところ一番に建てたり、分散して建てたりと本当にこれからの未来のまちづくりを考えているのか疑問。更新棟①は60戸(分)建てる予定で、(内訳が)35平米を2割、45平米を6割で60平米を2割。すごく狭くて、とても家族で住めるような住宅ではない。住民の意見も聞かずに進めているとすごく疑問を感じるの、住民に、京都市として責任ある説明

会を開いてほしいし、周辺住民が集っているこの場でも、正式な形で京都市が参加しての説明会を望む。

参加者D 養正保育所の保護者。今日は京都市さんは来られているのか？

杉山 今日は誰も来られていない。

参加者D 今後は？

杉山 何か説明をしていただくとか具体的なことがあるときは来ていただくようお願いするが、あとは自由参加。

参加者D オブザーバーに京都市が入っているが、それが来られていないということは、欠席か？

杉山 そうですね。今回は欠席です。

参加者D 第一回(のミーティング)のときに、まず、こういう場の前に、この地域、この住宅の歴史の総括を京都市がどうされるのかを聞かせてほしい、(まちづくりの話は)それからじゃないかというご意見があった。私もそれを聞きたくて毎回参加しているが、その総括を、いつ、きちっと聞かせていただけるのか。浅井さんが要請してくださったその説明会においてなのか、このまちづくりミーティングにおいてなのか、なかなか遅いと思って待っている。もう一つは、子供の数が少なくなっているのは養正の地域の問題ではない。全国的にどこも少子化だが、例えば低所得の家庭の方とか、ひとり親家庭、母子家庭などをメインに、地域の方(の子供の世帯など)が(市営)住宅への新規の入居を望んでいたのをずっと京都市がそれをさせてこなかったと、第一回、第二回(のミーティング)の時に聞いているのと、あと保育料、民間園の保育の補助金を京都市がカットばかりしてしまったり、今までは所得に応じて(保育料を徴収して)いた学童保育が、利用する時間に応じて徴収するように行財政改革で変えてしまって、より子供を預けてたくさん生活費を稼がなければならないひとり親の家庭、特に母子家庭の方などが一番厳しい状況になってしまうという政策をずっとやってきていて、子育て世帯の人はどんどん滋賀など近隣に流出している。それがすごく大きい。第二回(のミーティング)のときに、(養正地域の少子化が)この地域の歴史に絡めてネガティブな意味合いの文脈で語られたことがすごく印象に残っていて、そうではなく、この養正の地域の問題というよりは、京都市の政策の問題だということでは言っていないといけなと、みんなで一回確認したい。あと、きちっとした説明会がなされていないのもおかしい。私たちが既に建っている賃貸住宅を普通に借りて住むときだったら、内見に行ったら、自分たちの生活にはどういうところがふさわしいかというのを考えて、そこに住むかどうかを自分の判断で決められる。(新しい市営住宅を)これから建てるのであれば、なおのこと自分たちの意見を隅々まで反映させた住まいを作るのが当然の権利なのに、今回のこの住宅の建て替えに関しては全くそれがなされていない状況が本当におかしい。この土地に住まれている方の当たり前前の権利としてそれが守られてほしい。住民の方の隅々にまで疑問や質問や困りごとに全部答えられるような京都市の説明会がなされるまでは、この場はストップすべき。私の子供がお世話になっている養正保育所も、なぜか再生エリアに入っていて、この勢いで民営化されてしまうのかと不安だが、それに対して、京都市から保護者に対しての正式の説明会はまだない。それはこれから要請しないといけなと思っているが、自分たちや自分たちの子供、子育てしていることをすごくないがしろにされている気持ち。住宅にお住まいの方はもっともとなのでは。ここに入れてよかったという思いの方もおられるだろうし、自分たちの土地を取り上げられてここに入らざるを得なかった方もおられる。それでもここでずっと暮らしてこられた歴史がある中で、その方たちが今、自分たちの住まいがこれからどうなるのかということも、きちっと安心できる材料がないままに、その跡地をどうするという話は暴力的だし、ここにいる私達が差別に加担していると思う。本当は参加したくないが、せめて、(このミーティングを)やめてほしいと思ってここに来て意見をしています。保育所の保護者として、ここの住民の方々におおらかに見守ってもらって、子供は育っていると思うし、子供たちはこの風景の中で育っていると思っているので、この住宅がなくなることへの不安もあるし、何より、そこに住んでおら

れる方の気持ちが一つ反映されていないこの計画の進め方に絶対に賛成できないし、このまちづくりミーティングを継続することにも私はすごく反対。この場におられる人はみんなこの差別の助長とか、いろんなことに加担していると私は思う。

参加者E この前の(ミーティングの)ときに、ここで出た意見を一本化して役所に届けるつもりはないと代表の方がおっしゃったが、今まで住んでおられた地域の皆さんがここでおっしゃっている切実な希望や意見が役所に届かなければ、それはどうなるのか。これ(このミーティング)を続けていかれるのであれば、ここへは役所が(来て)、それは持ち帰って話をしてきて返事するというきちっとした流れがない限りは、ここで言っていることは何の役にも立たない。それで、役所はどんどん話を進めてしまって、(跡地活用の)青写真が出来上がった時点で、私たちにこうです、こうしますと言われても、それは地域の住民の希望が通ったわけではないから、もう少し地域の人たちに、役所から説明を細かくして、青写真を引いていただくという方向に持っていけないと、絶対に駄目。皆さんいろんなことを知りたい、細かいことを知りたいから、ここにお見えになっている。私もこの地域がどんどん発展していったらいいなと思って頑張っているが、それが今回のことで、地域住民の皆さんが分断されるみたいな状況になったらすごく困る。これからここで生活していく次の世代の子供たちというところを見て、皆さんいろいろ話しておられると思うので、そういうところをきちっと役所に上げてもらわないと困る。そうでないとここで言っていることは何の意味もない。

下村さん 何の意味もないと今おっしゃったが、今日最初にお話しくださったお三方がいろんなお話をしてくださったことも全部意味がないのか。ああいう話をしても意味ないというのか。

参加者E そういうことを言っているのではない。

下村さん でもこの会自体、意味がないとおっしゃったではないか。ここでいろんな話をしても意味がないとおっしゃる方が結構いるけれど、今日は休まれているが、個人の資格で市役所の方も来ることももちろんある。あまり発言いただいているし、私も市役所の方が必ずしも十分に情報を提供してくださっていないという感じはもちろん持っているが、でも、だんだんこうこういう場の中で腹を割って個人の資格でも話ができるようになっていったらいいなというのがこの会だと僕は思う。どこまで政策に反映できるか確約はできないかもしれないが、市役所の人もそれについてちゃんと真面目に検討してくれるようになるとか、我々の気持ちも届くようになるという場が大事。突き上げて、要求してというのとはまた違う形で、所属団体なども超えて、こういうところ、こういうものを目指してこういうふうにしていこうよ、そうだねというのを形成していけたらいいねということでこの車座会議をやっていると思う。その中で今日も、子育て環境としてはこういうところがあってこんなものがあつたらいいねというように、いろんな話が出ていて、それを聞きたくて来られている方もたくさんいると思う。そういう蓄積を作ろうとしていっているのに、毎回毎回同じような形でこの会に意味がないと言われたのでは、これが好きで来ている近隣住民たちは立場がないので、そこら辺をもう少し押さえていただきたい。

参加者F 意味がないということ言っておられるのではなくて、ここで話したことや地域の方の意見をどこかで集計して、共有できるものを作りたくて言っておられると僕は思う。反対ではない。京都市は、思ったことだけ持ってきて、それに住民が乗ってくださいという形だが、そうではなくて、住民の意見を聞き取りしてくれるのなら、こういう話をやっても僕は意味があると思う。ただしそれは100%通るわけではないのは皆さんわかっていると思う。公園の話もそうで、希望の広場で子供があまり遊んでいないのは何が悪いかということとをここで論議したらいいだろうし、そういう話をここでして、一本化できることは一本化して、共有して、申し入れをしたらいいと僕は思う。

参加者G 初めて参加。今日はてっきり京都市の方が来られていると思っていたのに、いらっしゃらなくて残念。私は更新棟①になるところの52棟から立ち退いて、今12棟で仮住まいをさせてもらっている。結婚して、

違う地域から52棟に来て、息子が4人いて、何十年とそこで暮らしていた。突然立ち退きの話に来て、半年後から立ち退きが始まるということで驚いたが、期限が来るまでには立ち退いた。初めて皆さんの意見を聞かせていただいてすごく勉強になっているが、そこに住んでいた者も、どうなるかさっぱりわからなくて不安。(活用エリアは)皆さんが活用できるようないいところになればいい。私は新しくできる更新棟①に戻らせていただくが、そのときに孫たちもたくさん来るので、一番広い大きい部屋に入りたいと(京都市に)言ったら、それは保証できないと言われた。今住んでいる者もすごく不安に思っているの、こういう場には京都市の方が来てくださって、報告ではなく生の声も聞いていただきたい。

参加者H (中さんは)ニューヨークから来られて、(前も)前の地域は、ちょっと居心地が悪いと思われて、この地域に来られたということだが、具体的にどう雰囲気違ったのか、この地域ならではの活動があったのか。この地域だから住みやすいと思えたことがあつたら聞きたい。

中さん 以前住んでいた場所では、子育て中であつたというのもあって、子供がいじめられた。あと、母親がこのあたりに住んでいて、学校や地域の話のいろいろ聞いて、ここだったら私達家族もきっと住みやすいと思うよという、その一言だけで、こちらの方に移ってきた。住んでみて、自分たちでここの地域を経験して、今15年目。子供たちにとっては住みやすい、親としては安心して暮らしていける場所だと思う。

参加者A 私は(小学校が)この少人数だから何か弊害があるとは思わない。1人の先生が1時間のうちに全員ちゃんと確認できるのは30人と聞いたことがある。だから昔の、45人とかのクラス編成のときは15人ぐらいは、先生は、この子がわかっているのか確認せずにその授業が終わっていたということなので、(1クラス)20名だったら確実に先生は、この授業が分かったか1時間で確認できるということで、それはそれで素晴らしいことだと思う。昔の3人も4人も兄弟がいたときは、(親が子供一人一人を)確認できなかった。その子たちは自分の情報かどうかを必死で(聞き取るという)活力があつたので、これが宿題ですよと言ったら、自分の情報かどうかを皆さんで聞き取れたらいいが、今は、核家族とか、ひとりっ子のところは、(子供が)2人の家庭だったら、お父さんが目と目を見て、お母さんがもうひとりの目と目を見て、親が一人ずつ子供を確認できるので、一対一で話してくれることに慣れているから、(先生が)皆さんと言ったら、その皆さんという言葉が自分の情報かどうか聞き取れない子供がいると、友達の先生とかから聞いた。だから20人でひとクラス、その先生が1人でやってくれるのはもう素晴らしい環境だと思うが、毎年5人(ずつ)減って行って、そのうちなくなるというのを一番心配している。私はそういう意味で減っていくのが悲しい。

杉山 今日はせっかく、中さんの息子さん(がいらっしゃるので)、ここに引っ越してきて良かったこととかがもしあつたら、ぜひお聞かせ願えれば。

アレマヨさん (中さんの長男) 僕はここに引っ越してきて良かったのは、元々の(この地域の)歴史があつて、ちょっと迫害されて生きてきた人が多いから、受け入れてもらったというのはいっぱいあるし、だから棟が潰れるというの、ちょっと悲しい。歴史があるからそういうのをいろいろみんなで一緒にやっていたのに、こうやっていろんなものが潰れたらそれもなくなるのかなと思って、それはちょっと違うなと思った。

参加者B 京都市が住宅建て替えについてはきちっと説明責任を果たさないといけないとは思いますが、かつては市営住宅に住んでいた人たちがここではなくこの周辺に住んでいて、その人たちがふるさと感じていないのかといたら、そんなことはないと思う。この会は周辺住民や養正学区の人たちに話を聞くということで、その人たちの思いも聞ける場所として非常に大切だと思うし、その人たちにとっても、ここがふるさとだと思うし、この会で必要なのではないかと、今日思わせてもらった。

下村さん 10棟全部除却してしまってそれぞれのところにも全部造成し直していく形になると、思い出の場

所が100%消えてなくなってしまう。忘れてはいけないものや、残さなければいけないもの、あるいは復活させなければいけないものはきっとあるはずで、それはどんなものなのかというのをもう一度みんなで思い出して地図の上に置いてみるとか、これは大事にしなければいけないというものをちゃんと市役所に訴えるということ、一度やらなければいけないのでは。そういう、忘れてはいけないものや残さなければいけないものをみんなでワイワイ言いながら地図上に置いてみるみたいな機会が作れたらいいかと思うので、改めて提案させていただく。

参加者E この地が建て替えられて、皆さんでいろいろ話し合った結果、希望が通るかどうかはわからないが、開かれた同和地域という形で、どんどん発展していくというのはとてもいいことだが、現状、まだまだ同和地域というところで差別があることを皆さんに十分知っていただきたい。私の家へお礼を持って行くという方から、どこら辺に住んでいるのか聞かれた。詳しく場所を説明したら、はっ?という返事が返ってきて、まだ詳しく聞かれたので細かく説明して、その方に見えて結局元田中のところでお会いしたが、その数日後から、何回会っても私と全く喋らないし、知らん顔をして、私と目を合わさなくなった。たぶんその時に、私が同和地域の間人だということがわかったのだと思う。だから現実にも差別が残っているということを皆さん十分知っていただいて、そしてこの同和地域が開かれるということは、私たちはそれが、他の地域の人たちと交流ができると軽く考えているかもしれないが、同和地域以外の人は、開かれることは危ないと考えていらっしゃる人もあるかもしれないので、皆さんそのあたりを、できるだけ心に留めていただいて、そしていろんなことを力を合わせて頑張っていけないといけないと私は思う。

参加者I 京都市に、どんな形でもいいので要望書を届けて、ここで出ている意見を京都市政の中に反映していただきたい。京都市の職員は、地域でこういう、いわゆる懇談会がやられているのなら、来ないといけな。それが、その職責を果たすという意味においては当たり前ではないか。既に日程は全部決まっている。だから、市の職員の方は、わからないことはわからないで構わないので、来て、住民の方々がこんな議論をされているということは、直接聞いていただきたい。やっぱり建て替えの話が出る。だからそれは京都市の職員がいないと、話が進まない。建て替えというのは、住むという権利をどう保障していくのか。どれぐらいの広さ、高さで新しい地域を作っていくのかというのは、少なくとも京都市の中で、お考えをおまとめになるのが当たり前だろう。かつて田中でやられたように、全部更地にして、高層住宅を作って、さあ入りなさいという、そういう建物の作り方では住むということの権利の保障というのは難しい。それを京都市がどうお考えになって、おまとめになって、新しい方向性を出そうとされているのかということについては、必ず意見として出るので、京都市の方はぜひここに伺ってほしい。

杉山 今日はこの辺にさせていただきたい。いろんなご意見があつたが、私達、主催する側としては、こういう対話の場を継続することは非常に大事だと考えているので、次月7月も基本的には予定通り開催したい。ぜひまたいろんなご意見をお聞かせいただければ。最後に委員長からご挨拶させていただいて終会にしたい。

浅井 養正学区の市政協力委員会の連絡協議会から、学区要望を毎年出すことができる。今年は二点で、一点目は、出町柳の駅前が、送迎用の一旦停車の車両が多く、自転車とかが通行するのにもものすごく危ないので、ロータリー式の駅前に整備して、自転車と車との複合交通の安全性を高めてくれというのを出している。可能ならば、出町柳の観電の駅を地下化して、上にロータリーを整備してほしいということも書いていて、この辺りの観電も地下化をしてほしいという真意も裏にある。二点目に追加で、地域のまちづくりミーティングを今まで3回してきたが、皆さんに十分の理解ができていないのと、不安をお持ちの方が多いので、このままの状態では将来の活用予定エリアのゾーンをどうするかということ、柔軟に発想できるような余裕がないのではないかとということに気づいたということも書き、もう一回住民説明会をしてほしいという話。住民説明会も、現住民は建て替えは切実な問題で、高齢の方も増えていて、高齢になってから引っ越しというのも気の重い話なので、

そういう方が安心できるような説明を欲しいというのと、もう一点は、保育所やいきいき活動センターは、現在はこの住民も利用できるようになっていて、公共施設も将来的には変わる可能性があると思っている方が多いので、住棟だけではなくて、そういうことも含めて養正学区の住民だけではなく、エリア外の公共施設を利用されているような方々も含めての説明も兼ねてほしいという話はしている。

参加者F 一回目の(ミーティングで)の説明で、突っ込んだ質問とかいろんな答えをもらっていないから、消化不良を起こしているのではないかな。だから、この会議でもう一回、説明会を開いてもらったらどうか。

下村さん 市役所がそれ(計画)を作らせた都市計画コンサルタントがいるはずで、その人を選んでこないか説明できないと思う。

参加者J それと、担当の課長も出てもらえなかったら、詳しい説明ができない。例えば建て替えの構想についても、51棟、52棟のところ建つ(新しい住棟の)平米数の比率が2対6対2対で、40平米ちょっとぐらいの戸数がものすごく多く、今現在13棟で住んでいる部屋よりも小さい部屋がたくさんできる青写真になっている。市役所が計画しているのは、子供1人夫婦2人の3人しか住めないような平米数だから、それでは、また子供ができて大きい部屋に住もうと思ったら、出ていけないといけな。そういう状況を繰り返したら過疎になる。だから、子供が2人でできてちゃんと生活できる平米数の戸数をたくさん作ってほしいという要望も言いたい。その説明ができる課長クラスも参加してもらえないといけな。

浅井 住宅の建て替えの問題は、今の住宅に住んでおられる人を対象にするというような答え方だった。だから、今の住民の中でそういう間取りの話とかの説明会の対応を京都市に求められたことはあるのか?それをデルタフェスティバル実行委員会を通じてやってほしいとおっしゃっているのか?

参加者J そう。この会が主催でしてほしい。

浅井 今(市営住宅に)住んでおられる方だけではなくて、養正学区全住民の声として、それを進めてほしいほしいということ?

参加者J 役所は、今住んでいる人の建て替えの計画は言っているが、余った戸数が出てきたら、どうするのかいうことを聞きたい。周辺の人も入りたいという人もいるかもわからない。私もここ住んでいて、出て行った者だが、入れるのなら、住み替えしたい。

浅井 一回目の(ミーティングで)説明のときに、今現状住んでおられる方の入られるところを建て替えるという説明だった。

参加者F その通り。それは、前の部長が市会で答弁したから、それをなくそうと思ったら、もう一度市会の方に嘆願書が何かを出して、変えてもらうことしかもうできない。ただ、(第一回ミーティングで)されたような説明会なら、この4月で担当課長が変わっているので、もしかしたら出てもらえるかもしれない。そちらの事務

局の方の力でここへ来て話してもらおうようにしてもらったら、僕はいいと思う。

参加者E ここ(市営住宅)の住民の方が、役所に説明をしに来てくださいという形で、要望しなければダメだという話?

浅井 役所の話では、全体的な説明会はしていないけども、何回か個別に説明会はしているという話。住宅棟の更新のことに限っては、現在住んでおられる方が対象なので、住宅に入る予定のある人がまとまって交渉してもらおうのが筋ではないかという気持ちを僕は持っている。住宅棟の更新に関しては、住んでいる人が窓口になって、アクションを起こしてもらって、それで埒があかないから手伝ってくれという話だったら、また手伝える方法を考える。基本は活用予定エリアをどうするかという話を僕は進めたいので、このミーティングで住宅棟の話に時間をあまり割きたくない。本筋に戻りたいので、住宅棟の問題に関しては入る予定の人が中心で動いてほしいと僕は思う。

参加者D 京都市がオブザーバー参加なのに、欠席されていて、今日はどうしても来られなかったが、次回は必ず来るとかということもないのが、この場もなめられていると私は思うし、名前だけ京都市がオブザーバー参加になっていて、形上は京都市が出ているというポーズになってしまうこともすごくおかしい。なので、ここでずっとこういう声が出ている以上、デルタフェスティバルとして、もしくはこのまちづくりミーティングでやってきた意見の総意として説明会を早期に開催することを求めるというのを出すべき。それを絶対やってほしいし、もしそれがどうしてもできない、住宅の問題はこの問題ではないとおっしゃるのであれば、私は友人と別で動く。これは市の事業だから、市民は全員知る権利もある。説明を聞く権利、説明を求める権利も誰にもある、個人や団体、グループ、いろんなところから説明会をするべきだという声を上げていかないと(京都市に届かない)。今の京都市に対して、住民の声をちゃんと聞きなさいという声を届けるのは、例えばその住宅に今お住まいの方たちが一丸となって声をもし上げられたとしても、すごく難しい。本当に市民がいろんな角度からどンドンドンドン要請していてもなお、聞いてもらえないことが、別にこの問題だけではなくあっちこっちで起きている。だから、まちづくりミーティングとしても、ぜひ(要望を)出してほしい。杉山さんがここでより多くの意見が出たら、それを市に必ず、こういう意見だと言うし、京都市を呼んでくるともう何回もおっしゃっていたが、ずっと出ているので、デルタフェスティバルの名前でも、プラスまちづくりミーティングの名前でも出して、その後、個人有志でもいいし、やっていくべきだと思う。どうしてもそれを主体としてもやれないということであれば、私は有志でこの(市営)住宅の説明会の要望書を上げたいと思っているので、もし何人かおられたら、一緒に要望書を出して京都市に申し入れしに行きたい。もし、一緒にやろうという人がいたら、あとで言ってほしい。

参加者E 住宅の建て替えの、住んでおられる方の意見が、この会の方向とはちょっと違う気がする。この会は、空いた跡地の土地をどう活用したいかというみんな

の意見を聞くための会だという理解をされておられる方と、ここに来たら自分たちが今住んでいるエリアの中の建て替えのことについても、説明が聞けると思っで見えておられる方と両方いらっしゃると思う。それで話がちやごちやになっていると思うので、住民の方たちの希望とか意見を聞くために役所の方を呼んで、そこでそういう話をさせていただく。私たち、この中に住んでいない者に関しては、その跡地をどんなふうにするかという希望も、この会の代表として役所に届けて欲しい。そのあたりのことをきちっと整理した上で話し合いたいと、私は無理があると思う。役所に意見が届かなかつたら何の意味もないと思うので、そのところを整理して、きちっとした説明会と、このミーティングの線もきちっと引いた形でお話をしたい。

浅井 何回も言っているが、デルタフェスティバルのまちづくりミーティングは、活用予定エリアをどうするかということをメインにやっているのは変わらない。だから二回目にこの地域の団地に現在お住まいの方の想いを伺ってそれを共有してから、次の段階として、活用予定エリアをどうするかということの参考にするために、二回目に来ていただいて(団地にお住まいの方の想いを)語ってもらった。でも住民の方が京都市のやり方に納得できていない現状が明確になったので、それはそれで、説明は個別にしているが、十分できているものではないから再度お願いしたいという話はしている。その一方で公共施設の現利用者は養正学区の住民だけではなく、そういう公共施設を利用されている方も含めて、団地外の人間も集まって活用予定エリアをどうしようかという考えを皆さんで語り合っまとめていくという、本筋に戻りたい。ただし、現住民の不安な面がなかなか払拭されることができないだけの対応しか取っていない京都市に対して、再度そういう説明会は求め続けていくし、それはデルタフェスティバル実行委員会としてではなくて、養正学区各種団体連絡協議会という名前を出しているが、他の市民の方も連名や個人でもどンドン出してもらったら、それはより強力なバックアップにもなるだろうし、それはぜひ、やっていただきたいと思うし、とりあえず説明をしてもらうことを実現するのが最優先事項なので、いろんな方がいろんな方面でいろんなネットワークを利用しながら、京都市に要望を出していくというのは大事。それをデルタフェスティバル実行委員会としても出すかどうか、協議して判断するが、そういう形で進めていきたいし、このまちづくりミーティングは計画通り進めていきたい。



養正市営住宅団地「未来のまちづくりミーティング 通信 Vol.3」

編集・文章構成:南知明
発行:かまがわデルタフェスティバル実行委員会

■ かまがわデルタフェスティバル実行委員会 参加団体

京都学生演劇祭実行委員会、京都 TeraCoya、左京西部いきいき市民活動センター(指定管理者:特定非営利活動法人劇研)、人権連、田中神輿会、特定非営利活動法人 YT まちづくりの会、部落解放同盟田中支部、養正学区各種団体連絡協議会、養正学区社会福祉協議会、養正たすけあいの会(50音順)

■ オブザーバー

鈴木暁子(京都地域未来創造センター)
吉田泰基(京都市まちづくりアドバイザー左京区担当)
京都市住宅室すまいまちづくり課

第3回議事録



第4回議事録



SNSでも情報を発信中!

Twitter



@kamo_delfes

Facebook



@kamo.delfes

Instagram



@KAMO_DELFES